

## 5. 委員会検討の提案骨子

伊豆大島土砂災害対策検討委員会では、平成 25 年台風 26 号がもたらした豪雨によって発生した土砂・流木災害のメカニズムを分析し、現行砂防計画に基づく既設砂防施設の効果評価や新たに表出した課題を踏まえ、今後の火山砂防計画の基本方針をまとめた。特に被害が大きかった大金沢においては優先的に対策案をまとめる必要があることから、今後の土砂災害対策を検討した。

検討結果について、本報告書で提案する内容の骨子を以下にまとめる。

- ハード対策の実施に際しては、対策期間を応急対策、短期対策、中長期対策の 3 つに区分し、対策期間ごとの実施方針を示した。
- 砂防計画基準点より上流の対策検討に関しては、施設配置を 3 案提示し、それぞれの施設配置案を評価項目ごとに相対比較して、最適案を示した。
- 砂防計画基準点より下流の対策検討に関しては、既設流路の屈曲の改修や、老朽化した護岸工の改修など、技術的観点より改良の必要があることを示した。
- ソフト対策の実施事項として、今後必要と考えられる対策項目とその実施内容を提示し、土砂災害警戒区域の指定など優先課題を示した。
- 本委員会で提案する内容の実現に向けては、今後、東京都が主体となり、国、町、住民が協力して対応を進めていくこととなる。その際の、大金沢における土砂災害対策実施上の留意点を示した。